

## 乗務員年間指導教育の内容

	月別指導テーマ	指導教育の内容
4月	事業用自動車を運転する場合の心構え	事業用自動車の公共性を理解し運行の安全確保が重要であることを認識し運転のプロとしてハンドルを握っていることを自覚させる。
5月	事業用自動車の安全及び旅客の安全を確保するため遵守すべき基本的事項	道路運送法、道路交通法についての理解し遵守するよう指導する。
6月	安全性の向上を図るための装置を備える貸切バスの適切な運転方法	自動車に搭載された運転支援装置の機能を正確に把握するよう指導する。
7月	危険予知及び回避並びに緊急時における対応方法 乗車中の旅客の安全を維持するために留意すべき事項	道路を利用する自転車や歩行者の行動特性や、周囲の走行車などに潜む危険を把握することが必要であることを認識させる。 急な操作により車内事故を誘発させる要因となることを認識させ、シートベルト着用の重要性を落とし込む。
8月	交通事故に関わる運転者の生理的及び心理的要因及びこれらへの対処法	過労、飲酒、睡眠不足、運転技能への過信運転など事故の起因となる状態を理解する
9月	異常気象における対処法	急激な天候の変動や災害に遭遇した際の対応方法や安全確保に関する取り決めを再度周知し把握させる。
10月	主として運行する経路又は営業区域における交通の状況	運行路線、経路の道路及び交通の状況を把握するよう指導する。ヒヤリハットの危険地点についても留意する。
11月	旅客が乗降する時の安全を確保するために留意すべき事項	乗降時の乗客の安全を確保できるように乗降時は十分な注意が必要であることを認識させる。乗降口の扉の開閉についての指導。
12月	冬季道路における安全運転と非常用信号用具、非常口、消火器の取り扱い	チェーン着脱講習で技術向上を図る。雪道での運転における危険性の再確認と雪道での操作について指導する。非常用信号用具、非常口、消火器の取り扱い方の指導をする。
1月	事業用自動車の構造上の特性	バスの重量、車高、車長、車幅などの特徴から死角やスピードに影響があることを理解させ、内輪差や制動距離についても指導する。
2月	運転者の運転適性に応じた安全運転	適性診断の結果をもとに自身の運転の癖を自覚させ克服するよう指導する。
3月	健康管理の重要性	生活習慣病などの疾病が交通事故の要因となり得ることを理解させ、日常の生活から意識するように落とし込む。健康診断の結果に基づいて指導する。